

小委員会名	「公共事業における三者方式の実現に関する研究」小委員会	
テーマ名	公共事業における三者方式の実現に関する研究	
①研究目的	総合評価落札方式や設計・施工一括発注方式、マネジメント技術活用方式など多様な入札契約方式が導入され数年が経過している。こうした中、公共事業におけるプロセスの透明性については、改善が不十分な点も見られることから、それを担保する執行システムの研究が必要とされている。そこで、当小委員会は、公共事業における執行システムのうち三者方式の実現について研究する。	
②成果概要	<p>継続研究として、下記4項目について調査・分析を進め、報告書の最終とりまとめの段階に入っている。</p> <p>●中間</p> <p>○最終 (該当に●)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 三者構造に関連した建設産業の動向調査 2. 経験ある技術者を必要とするフィールドの策定 3. 第三者（専門技術者）としての能力と経験を有する人材群に関する実態把握 4. 経験ある技術者を活用するシステムの構築 <p>同時に、小委員会では、下記のような国内における公的発注者と受注者間の契約紛争問題の事例分析も行ってきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 発注者が裁判にて損害賠償を受注者に要求した事例に対する考察 ● 建設契約締結後の契約変更における政府調達協定の考え方 ● 刑事事件にすり替えられた、建設契約に関する社会的認知度に関する考察と検証 ● 受注者が工期内に工事を完成できる見込みがないとして、発注者が契約を解除し、これに対して受注者が発注者に対して訴訟提起した事例に対する考察 <p>近年、こういった問題が増加しており、その原因は受発注者ともに“契約に基づく業務遂行”の意識が希薄なことであるといえる。こういった状況から三者方式の導入が必要となる場面が今後増えてくると考えられる。一方で、第三者となる技術者には技術と同時に契約に対する深い知識と理解が求められることになり、その育成が重要となる。</p>	
③研究期間 進捗度	<p>2010年3月～2011年3月（研究開始から3年目）</p> <p>○予定より進んでいる ○ほぼ予定どおり ●予定より遅れ気味（該当に●）</p>	
④研究体制	小委員長	草柳 俊二（高知工科大学）
	副小委員長	－
	主要メンバー	太田隆文（ドーコン） 五艘隆志（高知工科大学） 嶋田善多（開発設計コンサルタント） 中村一平（金沢工業大学） 西垣 重臣（キック） 浜田成一（大成建設） 林 幸伸（日本工営） 峯谷 明（パシフィックコンサルタンツ） 山浦 直人（長野県土木部）
	小委員会委員数	10名
⑤発表実績	<p>2010年8月2日 建設マネジメント委員会研究成果発表会</p> <p>タイトル：「契約に基づくプロジェクト遂行における第三者（専門技術集団）の必要性と三者方式実現への方策」</p>	